

レポート

10th Anniversary
JAPANESE SAKE FAIR

日本酒フェア 2016

ついに10回目 國酒の祭典、今年もパワー全開！



日本酒があれば、みんなトモダチ



地震で被災した熊本県もクモモンと一緒に元気に出展



来場者と一緒に一斉乾杯(次頁参照)

國酒・日本酒の魅力を余すところなく味わえる「日本酒フェア2016」が6月18日、東京・池袋のサンシャインシティで開催されました。ファン待望の超人気イベントも今年で10回目。しかも好天の土曜日開催とあって、会場にはおよそ6,300人もの来場者が殺到。年に一度の日本酒の祭典は、今年もパワー全開！



日本酒新世代の女性や若者も続々



笑顔がいっぱい



全国新酒鑑評会入賞酒の公開さき酒会。今年もすごい熱気



🍷 10周年記念イベント仕様で、特別企画も盛りだくさん



オープニングのテープカット。法被姿左から、佐藤清酒技術委員長、(独法)酒類総合研究所の後藤理事長、篠原会長、国税庁の迫田英典長官、七田需要開発委員長。ミス日本酒 2016 の田中沙百合さん(左端)と日本酒イメージ・キャラクターのおちょくん(右端)も加わって、華やかに開幕。



「日本酒フェア」は、全国新酒鑑評会の入賞酒を網羅した「公開きき酒会」と、各県の蔵元が自慢の地酒を持ち寄って試飲・販売を行う「全国日本酒フェア」を組合わせた超豪華イベント(主催＝日本酒造組合中央会／後援＝国税庁、観光庁、(独法)酒類総合研究所)。

2007 年のスタート以来、回を重ねるごとに反響を呼び、今や愛飲家必見の試飲イベントとして、世代、性別、国籍を超えた支持を集めるに至っています。特に 10 回目となった今回は、記念イベント仕様で特別企画も充実。地域別 10 種類の「飲み比べ日本酒セット」やオリジナル金＆プラチナお猪口セットなどが当たる抽選コーナー、来場者全員参加による一斉乾杯、さらには外国人杜氏による日本酒セミナーなど、活気あふれるイベント風景を繰り広げました。



ニコマークのお猪口セット



◀ オープニングの挨拶を行った篠原会長は、まず 4 月の熊本地震で被災した蔵元にお見舞いを述べた上で、「今回のフェアは 10 年目を記念していろいろな企画を用意しました。飲んで、見て、体感して、全国の日本酒を存分に楽しんでください」と、歓迎の言葉。



◀ 続いて、国税庁の迫田長官が挨拶。
「最近、日本酒には明るい話題が続いています。日本酒フェアの人気もそのひとつ。伊勢志摩サミットで世界の VIP に提供した日本酒も大好評でした。今日はいろいろな発見を楽しんでください」



島田さん



田中さん(右)と準ミスの安藤裕美さん

◀ 全国日本酒フェアの会場 2 カ所で行われた一斉乾杯(13:00 と 18:00 の 2 回)。発声は、和服姿も艶やかな日本酒スタイリストの島田律子さんとミス日本酒の田中沙百合さん。カウントダウンに合わせ、全員そろって「日本酒で乾杯!」の杯を掲げると、イベントの一体感は最高潮に。

第10回 全国日本酒フェアの会場から



45 都道府県の蔵元が、自慢の銘柄およそ 800 点を出品した「第 10 回全国日本酒フェア」(他に日本酒造協同組合連合会など関係 6 団体と、漬物、珍味、調理食品の協賛 3 団体が出展)。幟やポスターで飾り立てた各県のブースでは、試飲だけでなく、特産物のおつまみサービスをまじえたり、浴衣姿で季節感を出したりと、アイデアを凝らした演出で来場者に県産酒をアピール。

入場は昨年に続いて 2 部入替え制(第 1 部 10:30～14:00/第 2 部 15:30～19:00)が取られましたが、中には「今年は 1 部からすごい人出。試飲用の酒がどんどん減っていく」「地元から持ってきた漬物が品切れ。どこかで何か調達しないと」といった県も。来場者からは「初めて来たけど、こんなに楽しめるなんて」「去年よりおつまみのサービスが増えた。うれしい」「アメリカ人の私にも丁寧に説明してくれました」などの声が聞こえて、各県渾身のオモテナシに、みんな大満足の様子でした(来場者の感想は 6 頁、各県ブースの風景は 7 頁)。



浴衣美人が笑顔で呼び込み



みんなノリノリ。世界的な日本酒人気で外国人の来場者は年々増加中



熊本地震で被災した蔵元のために、義援金集めも

珍しい赤こんにやく



「おつまみをどうぞ」



お腹が空いたらイートイン・コーナーで軽食も



スタンド・テーブルを囲んで歓談のひと時



場外休憩所の爽やかな空気が疲れを癒す

日本酒 セミナー

イギリス人杜氏の修業談など、興味津々の5講座 試食・試飲も交えて、楽しく日本酒を勉強



新旧杜氏対談。高橋氏(左)と千野氏

会場の一画に設けられたセミナーコーナーでは、恒例の人気企画「日本酒セミナー」を開催。今回のプログラムは、第1部が、①京都市・木下酒造(有)杜氏のフィリップ・ハーパー氏による「外国人杜氏による酒造り」と、②酒類総合研究所・藤井力氏(品質・安全性研究部門長)による「平成 27 酒造年度の全国新酒鑑評会について」の2題。そして第2部が、①トータル飲料コンサルタント・友田晶子氏の「涼を運ぶ！夏の日本酒クールスタイル」、

②ベテラン杜氏と女性杜氏の対談「酒造りの今昔」(秋田県・榊齋彌酒造店杜氏・高橋藤一氏&長野県・榊酒千蔵野杜氏・千野麻里子氏)、③日本酒スタイリスト・こばたてるみ氏の「心と体を癒す日本酒の飲み方」の3題。

来日後、日本酒に魅了されて酒造の世界に飛び込んだイギリス人杜氏の修業談(ハーパー氏)、全国新酒鑑評会の歴史や今年の審査結果の説明(藤井氏)、涼しい日本酒カクテルの作り方と試飲タイム(友田氏)、酒造りの奥深さや女性杜氏への期待などを語り合った新旧杜氏対談、日本酒の健康効果や調味料として裏技の紹介(こばた氏)と、5つの講座はいずれも興味の尽きないものばかりで、会場は満員の盛況。試飲や試食を楽しみながら講座を聴き終えた参加者は「外国人杜氏に日本酒の国際化を実感」「日本酒カクテル、面白くておいしかった」などと、感想を語っていました。



ハーパー氏



藤井氏



友田氏



こばた氏

展示企画 いろいろ



10月1日の全国一斉乾杯にも参加しよう！



「日本酒で乾杯 デジタルフォトコンテスト」の入賞作品コーナー。乾杯運動に入会を申込み若者も。



酒蔵ツアーへの関心の高まりを受けて、今年初めて設けられたコーナー。「旅行の目的がはっきりして、いいですね。ぜひ行ってみたい」(参加者)

信頼の印。日本産を示すJSSマークをPR



歴代首相が揮毫した「國酒」色紙コーナー



日本酒の基礎知識を紹介。日本酒ア・ラ・カルト



「この後、どこ行こうか？」会場周辺のタイアップ居酒屋を「ほろ酔いマップ」で紹介。割引き特典付き



平成27酒造年度
全国新酒鑑評会

全国新酒鑑評会の会場から



日本酒の酒質と技術の向上を目的に1911年にスタートして以来、今年（平成27酒造年度）で104回を迎えた全国新酒鑑評会。今回は、総出品数845点のうち413点が入賞、うち277点が金賞を受賞しています。

日本酒フェアの「公開きき酒会」は、鑑評結果の全貌を紹介するために毎年開催されているもので（主催＝日本酒造組合中央会／後援＝（独法）酒類総合研究所）、今回（10回目）も、27酒造年度入賞酒のほぼすべて（412点）を一挙公開（第1部＝10:00～13:00、第2部＝15:30～19:00）。文字どおり「酒造技術の精髓」を体験できる唯一のチャンスとあって、会場には日本酒のプロや一般のファン、流通・料飲関係者らが早朝から詰め掛け、きき猪口と出品リストを手にとり地域別8ブロックに分けられたテーブルを巡りながら、「折り紙付き」の醍醐味を確認していました。



午前9時半、早くも長蛇の列



出品酒に注がれる真剣な眼差し



「これ、おいしい！」



外国人参加者も、天井を覗んでチェック



女性参加者も年々増加



日本酒の安全や容器リサイクルなどを紹介した酒類総合研究所の展示コーナー

出品酒412点は、北海道・東北①、東北②、東北③、関東、甲信越・北陸、東海・近畿、中国、四国・九州の8ブロックに分けて公開されました。



「おじさんのお酒だと思ってたけど」「故郷のお酒を見直しました」

・日本酒って、おじさんのお酒と思ってましたが、ある時吟醸酒を飲んで好きになりました。カクテルみたいに变な甘さがないのがステキ。公開き酒会は最高のお酒が試飲できると聞いて、とても楽しみにしていました。出身地のブロックに行ってみたら、知らない銘柄がいっぱいで、故郷を見直しました。（「公開き酒会」で。一般、女性）

・私、土曜日も仕事があるんですけど、去年も今年も会社を休んで来ちゃいました。もともと日本酒が大好きだし、これだけいいお酒をいっぺんにきき酒できるチャンスは絶対に逃せませんから。今年はいつもよりオツマミのサービスが増えたみたい。うれしい。（「全国日本酒フェア」で。一般、女性）



・絶対損しないからって、友だち3人引っ張ってきました。私は毎年来てるけど、他の人は初めて。来てよかったでしょ。
・はい、よかったです。初めてだけど、こんなに楽しめるとは思わなかった。お酒も2本買いました。（「全国日本酒フェア」で。一般、女性グループ）

・カリフォルニアの出身です。このイベントは3回目。今日は友達も連れてきました。2人とも素人ですけど、日本酒が好きなんです。特に香りがデリシャス。飲み口もスムーズで、とても飲みやすいお酒だと思いますね。友達も同じ感想です。（「公開き酒会」で。アメリカ人、男性）



・毎年来てます。楽しみにしてきた県のブースが、今年は小さくなっていて、ちょっと寂しい。でも、他の県のブースで面白いお酒を見つけたので、文句はありません。（「全国日本酒フェア」で。一般、女性）

・酒蔵ツーリズムという言葉聞いたのは初めてですが、地酒や郷土料理を中心にした旅行というのは、目的がはっきりしていて、ただの観光よりは面白そう。ぜひ、行ってみたい（「全国日本酒フェア」で。一般、男性）。

・当たり前だが、しっかり造った酒が賞を取っているという印象。どこの県というのではなく、深みのある癒し系の酒が増えている（「公開き酒会」で。酒造、男性）



ノースカロライナから来ました。ドライな日本酒が私の好みよ。

・何といっても、ハーバーさんのセミナーが印象的でした。海外での日本酒人気は知ってましたが、外国人の杜氏まで出てくるなんて。ああ、こういう時代になったんだって感心しました。ハーバーさんのような人がもっと増えてほしい（「日本酒セミナー」で。料飲、女性）。

・日本酒カクテルなんて日本酒に申し訳ないような気がしてましたが、初めて飲んでみたらおいしかった。日本酒を世界に広げるためには、こういう行き方もあっていいのかなって思いますね。（「日本酒セミナー」で。酒販店、女性）



第10回「全国日本酒フェア」

～ 各県酒造組合・関連団体・協賛団体の出展風景 ～

各都道府県酒造組合(連合会)のブースから



北海道



青森県



岩手県



秋田県



山形県



宮城県



福島県



群馬県



茨城県



栃木県



埼玉県



千葉県



東京都



神奈川県



山梨県



長野県



新潟県



福井県



石川県



富山県



静岡県



愛知県



三重県



岐阜県



滋賀県



京都府



大阪府



奈良県



和歌山県



兵庫県



岡山県



広島県



鳥取県



島根県



山口県



愛媛県



香川県



徳島県



高知県



福岡県



佐賀県



長崎県



大分県



熊本県



宮崎県



□ 関連団体のブースから



関西末広会



東京農大花酵母研究会



長期熟成酒研究会



全国燗酒コンテスト



ワイングラスでおいしい日本酒アワード



日本酒造協同組合連合会



□ 協賛団体のブースから



全日本漬物協同組合連合会



全国珍味商工業協同組合連合会



全国調理食品工業協同組合

